

1-2 安全目標

1-2-1 2012 年度 安全目標

「有責事故ゼロ」の継続

2006 年以降継続している「『有責事故ゼロ』の継続」を 2012 年度も安全目標に決めました。

この安全目標の発端となっているのは、1978 年 1 月 20 日に十三駅 4 号線ホームで引き起こした事故です。34 年前に発生したこの事故は、閉めた扉にお客様のバッグが挟まっているにもかかわらず、列車を出発させたことが原因でした。お客様の乗降状況をテレビモニタで確認していた係員が、見誤って出発合図を出したことから列車が発車し、お客様はホーム上を約 5m 引きずられ、軌道内に転落し、お亡くなりになるという極めて悲惨な事故でした。

全社を挙げて再発防止に取り組み、当時、軌道内に転落したお客様を発見した場合に駅係員や乗務員に通報できる非常押ボタンをホームに設置しました。また、事故の風化防止を図るために開設した安全考学室にも、この事故に関する資料を掲示する等して、再発防止を図るよう徹底しています。

2012 年度も継続を誓い、「『有責事故ゼロ』の継続」を安全目標に掲げ、事故の防止に全力で取り組んでまいります。



1-2-2 2012 年度 安全方針とアクションプラン

2012 年度は安全目標の達成のため、引き続き「社会に信頼される安全・高品質なサービスの提供」を安全方針に掲げ、安全を上回る“安心”と“快適”な鉄道運行を目指し、それぞれ詳細なアクションプランを策定して実施していきます。

「社会に信頼される安全・高品質なサービスの提供」

～「安心・快適」阪急電鉄～

《1》安全意識の高揚・安全対策

- (1) 「安全の意識」を醸成・高揚するための取り組み
- (2) 覚せい剤・大麻等、薬物乱用防止及び飲酒における事故防止対策
- (3) 事故再発防止に向けた取り組み
- (4) 情報伝達・共有化ならびにコミュニケーションの充実に対する取り組み
- (5) 輸送の安全に係る内部監査のさらなる充実

《2》安全性向上対策

- (1) 運転保安向上検討会
- (2) 立体交差工事等の推進
- (3) ホーム保安度の向上対策
- (4) ATS装置改良
- (5) 新形式車両の建造、ならびに既存車両の改造工事
- (6) 運転状況記録装置の整備
- (7) 耐震補強工事
- (8) その他

《3》本社内グループ会社と一体となった人材育成・技術伝承

- (1) 教育指導体制の見直し
- (2) 各種教育訓練の効果把握